

3. [医療と保健の融合による健康づくり拠点の整備について]

木次町会場

Q1：検討委員会の委員について、庁舎建設と総合センターのあり方は各種団体からも選任されているが、医療と保健の融合は異なる選任方法だが、その理由を聞きたい。また各検討委員会の委員は次回の市の広報誌にて公表すること。

A：健康づくり拠点整備検討委員会は、市民代表が入っていないとのことだが、医療と保健、福祉、教育などの専門の方と市民代表6名に入ってもらった。新庁舎、組織見直しの各委員会は、市民の代表、自治会長会、地域自主組織、地域委員会連絡会など地域の代表の方が人選され選出された。委員は市報で公表する。(副市長)

Q2：保健と医療の融合施設について、施設の運営・設置にあたり市民にアンケートをとったのか。医師不足の中でこういった施設をつくって運営できるのか。また施設建設の費用が、6～7億円かかると思われるが、財政非常事態宣言が出される中でどのように解決していくのか。運営にあたって年間3～5千万円の赤字が見込まれるが、これは一般財源の中から出されるのか、起債を発行されるのか。

A：運営についてのアンケートはとっていないが、検討委員会に18名の委員に入っている。来月も開催を予定しているので、その中でご意見を聴くこととする。医師が少ない中で医師などの職員配置については、医師の指導が非常に重要であり、すぐに来ていただけなくても将来的に医師の指導が受けられる施設を目指していこうと考えている。建設費は、補助事業の都市公園整備事業を予定しており、プールの整備は2分の1の補助があり、残りは起債を充てると全体で2割弱の負担になる。また運営費については、温水プールの熱源に何を使うかで建設費も運営費も違ってくる。今木質チップボイラーでと考えているが、この場合年間46百万円程度の市の持ち出しが必要になり、一般財源で負担することになる。(健康福祉部長)

Q3：東御市の先進事例が発表されたが、これはごく僅かな成功事例であり、全国30箇所以上で失敗例がある。その失敗例をぜひ参考にされたい。

A：失敗例もあろうと思うのでそれも参考にし、同じ道に進まないように検討していく。(健康福祉部長)

Q4：資料の痛みを持つ高齢者の腰痛有訴率は、農作業などを年齢以上のことをしているからだ。それと高校の運動疾患は運動させすぎだ。

加茂に建てるということは、遠方の市民はどうやって行くのか。30分に1本バスが出るのか。1時間かけて行って1時間運動して、1時間かけて帰ったら、次からは誰も行かない。もっと利便性のある場所でやるのか。温水プールじゃなくて、温泉を使ったりすれば良いことではないか。

関連質問：温水プールと温泉プールは違う。温泉というのは、温泉法で成分が何がいくらか認められたもの、温水プールというのは人工的に加熱しただけ。温泉と温水とが一緒になったような説明の仕方をされた。だから温泉プールなのか、温水プールなのかということを市民にわかるようにしてほしい。

加茂のプールは、元々B&G財団がつくったものだが、財団には報告、相談をしたのか。

A：農作業は、固定的な労働で腰を痛めたりするが、体や気持ちを動かし、生きがいにもなるので悪いことではない。子どもの成長過程では筋肉などが成長していく過程、バランス能力が付いていく過程など年齢的に段階があり、それを無視した指導は間違っているし、そういったことがあってこういう結果になっている。子どもたち自身も自分の体の仕組みと運動についてよく知り、運動前後にはストレッチをする。あるいは捻挫をし

たときの手当てをどうするかという教育を、研究所と市立病院の松井先生で続けているし、指導者の方にも啓発活動を含めてやっている。こういった努力を現在もしている。

失敗した事例も見えてきている。しっかりした考え方に基づいたソフト、プログラムの提供、指導者の配置がそういう事態を招かないポイントであると同時に、医師との関係も含め作っていくことが大事だと考えている。

輸送については、元気な方は自家用車をご利用いただくというのが一般的だが、例えば掛合や吉田などで地域運動指導員と一緒に日頃からウォーキング等をやっている週に1回とか月に2回とか拠点施設を利用したいということであれば、マイクロ輸送はできる。その他いろいろな手段については、検討委員会の中で市民の代表の方の意見を聞いてやっていきたい。温泉プールと違って、我々のものは温水。我々が目指しているのは水中運動を温水でやろうということ。

B&G財団には話しをしており、確定ではないが、場所を移すことについても了解を得ている。ハードの直接的な支援はないが、維持修繕に3千万円の支援もいただくことになっている。またB&G財団とは、指導のやり方といったソフト面の連携が重要なポイントであり、研究所うんなんの研究員も、子どもの指導に係るプログラム開発に参加させてもらっている。ソフト面での連携が大事である。専門家の皆さんと検討し、市民代表の皆さんの率直な質問に答えながら、しっかりとしたソフトで対応していきたい。(健康福祉部次長)

A：加茂町にあるB&G施設と同じ施設は全国に480カ所あり、建設後3年するとB&G財団から所有権が自治体に移る。昭和62年に建設されて3年後に合併前の加茂町に所有権が移っており、財団から維持修繕費がいくらか出る。老朽化した夏場だけ使えるプールは、温水プール化され四季を通じて運用されている。(市長)